

つけてあげれば、ボスになるような子達は持っている創造性を重んに發揮してくれる。「ボスは学級を發展させる」とつくづく感じさせられたのである。  
(大会発表論文抄録58―60頁)

## 社会性とその指導

(その一 社会的成熟度と保育上の問題点)

名古屋 保育短期大学 成田 錠一  
名古屋市立上名古屋保育園 石田 妙子  
名古屋保育短期大学付属保育園 師橋 瑛子

研究の最終目標として、具体的な指導という点をふまえた上で、幼児の成熟のレベルと民主社会にマッチした指導目標の設定を意図し、我々は最初に、既に提示されている指導目標並びに保育者の現実に抱いている目標のイメージ、生活場面ごとに望ましい指導目標等の検討を試みた。その方法として、(a)幼児の年齢に応じた社会的発達の多面的なレディネス指標を、K式改訂ヴァインランド社会的成熟度によって得点化した。そしてその結果から段階別の三つのグループを作った。つまり上の段階Ⅱ最高点から五名、中の段階Ⅱ平均点前後の者五名、下の段階Ⅱ最低点から五名である。次に(b)具体的指導目標への到達程度を知るために、まず幼児の保育所における生活場面から、自由遊び、集会的場面、共同遊びの三場面を選び、その場面ごとに、ふさわしい、望ましい行動目標を作りあげ、目標ごとに尺度化し三段評価を行ない得点化した。この際成熟度の度合い(上、中、下の段階)と関連させて行なった。(なお対象児は五、六才児七〇名)その結果は大会発表論文抄録40頁を参照された

い。

主なる問題点は、①成熟度の上の段階の子どもは全体的にみて、各目標への到達度が低いことで、この事から指導上並びに目標検討の上に多くの問題点をもつ(自由遊びの場面の(3)、(6)のように)。  
②成熟度の中及び下の段階は、それなりに指導内容上の問題をはらむ、という点である。  
(大会発表論文抄録40―41頁)

## 幼児の行動の全体事態的分析に

### ついでの一考察

(集団機能および役割の分化を中心とした実践的研究法により)

四日市市教育研究所 神 沢 良 輔

ここに報告するものは、四日市市の数園の幼稚園の一昨年度共同研究である。

一 目的 実際の指導の場で、幼児の行動を理解しながら、教育的な実践をどのように進めたらよいか、ということについての、一つの方法をみつけたそうとするものである。

こどもたちの行動を理解するために、幼児の行動に変容をもたらした条件を明らかにしながら、実践を進めるという方法をとった。行動の変容をもたらす条件については、個体的条件と、環境的条件とに大きくわけて考えた。個体的条件の中には、(1) 動機づけ、(2) 興味、(3) 誘惹性、(4) 能力、(5) 構え、(6) 性格、(7) 身体的条件、(8) 情緒的条件、(9) レディネスなどが考えられ、環境的条件については、教師や友人との関係を中心とする人間的環境と、

施設・設備・材料などを中心とする物的環境などが考えられよう。つぎに、実践の方法は、幼児の行動に変容をもたらした条件や過程を分析して、それを評価し、そのなかから、教育の行動的な目標や指導の方法をみつければ、それをもとにしてさらに実践し、その結果についても、また同じように分析することによって、つぎの実践をするという、アクション・リサーチ的な方法をとることとした。

だから、このような繰り返しによって、幼児の行動の理解の程度が向上し、それらから、教育の行動的な目標が、はっきりみつけだされるようになればなるほど、実践の程度も高次なものになってくると思われる。今回は、私どもの実践の主題となった、幼児の社会的行動の発達の重要な側面と考えられる、遊びの場面においての、集団機能および役割の分化を中心とした実践について報告する。

二 方法 実践的場面における、教師の活動をも含めた、幼児の行動についての、自由観察的な方法によっている。

観察記録は、日案のような形式をつくり、それに記録することにし、幼児の行動に影響を与えていると思われる条件が記録されやすいように項目を設定した。その項目は、(1) 幼児の諸活動に費した時刻・時間、(2) 保育形態、(3) 活動内容の領域、(4) 前日の活動から考えられる指導目標、(5) 誘導のメモ——前日の活動から考えられる物的環境条件や人間的環境条件の準備または整備に関するもの——、(6) 幼児の活動、(7) 集団の分化、(8) 役割の分化、(9) 指導のメモ、(10) 個人指導の記録、(11) 反省・評価、(12) 備考、(13) この結果から考えられる明日の指導の要点および環境設定であり、このうち、(6)・(7)・(8)については、活動そのままの記録と、行動の変容に影響を及ぼしていると考えられる、個体的条件と環境的条件について記述する。

日案のような形式にしたのは、教師の活動をも含めた、教育の場においての観察がもっとも大切であると考えたことと、それを教師が記録していかなばならぬということのためである。

この日案に記録されている事項のうち、遊びを中心とした役割の分化については、各役割ごとに、(1) 集った人員(性別に)、(2) 場面、(3) 遊んだ材料、(4) 役割の内容、(5) 発生したルール、(6) 遊びの持続時間、(7) 日時、(8) 幼児自発的活動、(9) 教師の誘導、(10) 幼児の活動 についてまとめられる。

これらから、遊びの発展の中心となっているいろいろな条件を整理し、指導のための行動的目標をみつければ、条件を理解して実際の指導の場で解決していこうとするものである。

(大会発表論文抄録43—45頁)

## 幼児の性格別指導について

### の一 考察

東洋英和幼稚園 村上 祐 子  
お茶の水女子大学 津 守 真

クラスの中の個々の幼児の性格が異なっているので実際に保育の場においてこれらの子どもの個性を伸ばすためにはどのような指導をすればよいかを明らかにするためにこの研究を行なった。

まず、面接、家庭訪問、日常の観察などの記録をもとに幼児の性格の主な要因である母親の養育態度と子どもの性格との関係をクラスの子どもについて調べた。「罰の厳しき」についてはしつけの厳しさ、即ち洋服を汚したときの親の態度、親を攻撃することに対して禁止する度合い、その他支配的態度の大小を判定し、「依存許容」で